2018 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
教育学部 子ども発達学科	教授	後藤 永子
最終学歴	学　位	専門分野
名古屋女子大学大学院修士課程生活学研究科修了、同大学院博士課程単位取得満期退学	修士（生活学）	保育（障害児保育）

Ⅰ　教育活動

○目標・計画

（目標）

毎年、保育者養成に携わる私にとって揺らぐことはない。今年度からの職位を鑑み、保育者・教育者の養成に力を尽くしたい。保育者も教育者も、子どもの健全な成長・発達を願うことが最大の目標である。「人として育てる」こと、これはまさに建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」そのものである。校訓の「真面目」でなければ保護者の信頼は得られないし、自分の子どもの命を託すことはない。

（計画）

まずは「人」として、「社会人」として、教育以前の約束を守ること、人としての常識、躾についても教えます。本学の学生の特徴と言うか、年々、学生が幼い・未熟さが目立つ、生活の基盤が弱い、自己中心的振る舞いからの問題が増えている。子どもたちの援助者になるための学び、人の手本になるべく生き方も教えていく。

○担当科目（前期・後期）

（前期）保育内容総論、特別支援保育、保育実習事前指導ＩＡ、幼児理解の理論と方法

（後期）保育原理、保育実習指導ＩＡ、保育実習Ⅱ事前事後指導、教育・保育相談、保育実践演習、保育実習ＩＡ、保育実習Ⅱ

○教育方法の実践

保育実習事前指導ＩＡ、保育実習指導ＩＡ、保育実習Ⅱ事前事後指導の現場実習に関わる授業において、約束を守ること、人としての常識、躾を徹底して教えた。

幼児理解の理論と方法、教育・保育相談、保育実践演習においては、グループディスカッションを多く取り入れた。指導案を作成し実践実証、ロールプレイなどグループワークを取り入れた。

○作成した教科書・教材

毎回、授業プリントを作成した。幼児理解の理論と方法では、事例に基づいて演習ワークシートを作成した。

○自己評価

概ね 90％の達成だった。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

・今年度は、平成 29 年度告示の「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について

・子どもの育ちの援助となる子ども理解について

・新しい保育指針、教育要領を踏まえた実習指導のあり方について

○目標・計画

（目標）

今年度は、平成 29 年度告示の「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」がスタートした。この三つに共通する子どもの「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」について理解を深め、より良い子どもの育ちへ繋げたい。更に、新しい保育所保育指針を踏まえた実習指導を行いたい。

（計画）

子どもの「育みたい資質・能力」は、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を育てることである。これらは、大学生を育てる教員にも繋がることである。子どもの主体的な深い学びを実現していくプロセスは、小学校教育への基盤を作ることとなる。養成校教員が学生を育てることは、学生が社会人となり、「先生」となることに共通目標と感じ、子どもたちのために、学生たちのために、積極的に研究を進めて行きたい。

○2011 年 4 月から 2019 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・後藤永子『 子ども理解ーかかわりを通してー 』、三恵社、2019 年 3 月、99 頁

・後藤永子『 障害児保育-共に生きる保育者のために- 』、相川書房、2012 年 12 月、115 頁

・石川幸生・杉谷正次・後藤永子・青木葵・山内章裕・木村典子『 超高齢社会における認知症予防と運動習慣への挑戦ー高齢者を対象としたクロリティー活動の効果に関する研究 』、地域創造研究叢書 No17、2012 年 3 月、127 頁

・田中まさ子・荒木照子・飯尾雅典・江崎幸代・奥美佐子・後藤永子・白幡久美子『 幼稚園教諭・保育士養成課程三訂「幼稚園・保育所実習ハンドブック」』(株)みらい、2011 年 4 月、183 頁

（学術論文）

・田辺恭子・後藤永子「保育所保育指針・幼稚園教育要領から読み取る『領域』と学生が認識する領域の研究ーファシリテーションを用いてー」東邦学誌 第 46 巻 第 2 号、2017 年 12 月

・田辺恭子・後藤永子「保育養成校学生の保育実習に対する不安の解明」東邦学誌 第 45 巻 第 2 号、2016 年 12 月

・鹿渡よしみ・後藤永子「人として育つ、保育者の質を考える」東邦学誌 第 42 巻 第 2 号、2012 年 12 月

・木村典子・杉谷正次・石川幸生・青木葵・後藤永子・山内章裕「認知症と精神的健康に焦点をあてた介護予防としてのニュースポーツー地域のクロリティークラブチームからの考察ー」愛知学泉大学・短期大学『研究論集』 第 46 号、2011 年 12 月

・木村典子・杉谷正次・石川幸生・青木葵・後藤永子・山内章裕「高齢者の記憶の自己効力感についての検討ークロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察ー」東邦学誌 第 40 巻 第 1 号、2011 年 6 月

（学会発表）

・後藤永子、八木朋子「年齢からみる保育所における障がい児受け入れ」第 66 回日本保育学会，2012 年 5 月

・木村典子・青木葵・石川幸生・杉谷正次・後藤永子・山内章裕「地域で仲間とスポーツを楽しみながら生活している高齢者の記憶の自己効力の検討ーA 県クロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察ー」, 第 53 回日本老年社会科学会，2011 年 6 月

・木村典子・青木葵・石川幸生・杉谷正次・後藤永子・山内章裕「地域で暮らし仲間とスポーツをおこなっている認知症の疑われる高齢者についての検討ークロリティー選手権大会に参加した

高齢者からの考察ー」, 第 26 回日本老年精神医学会 ， 2011 年 6 月

・八木朋子、後藤永子「保育学生のメディアへの意識ーコンピュータ不安を中心に」第 64 回日本保育学会, 2011 年 5 月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本保育学会、日本教育医学会、日本病跡学会、日本発達障害学会、日本特殊教育学会、日本小児精神神経学会

○自己評価

「幼児理解の理論と方法」が書籍として纏まり、出版ができました。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

与えられた任務を「真面目」に果たすことはもちろんのこと、大学運営のスムーズな運びに全力を尽くします。年々、教員間、教職員間のスムーズな連携が難しく感じています。今年度より、教育学部長として、運営委員会、学生募集戦略委員会、全学教職課程運営委員会等の他、様々な関連職にも取り組み、大学運営に貢献していく。

（計画）

タイミングよく決断する場面が多々あり、急な会議、打ち合わせも多く、何度も同じ確認が必要となる事案も多い。引き続き学部内での連携が図れるように具体案を出していきたい。教育学部長として学生や教員の不利益とならないようにスムーズな大学・学部運営に尽力を尽くすことと、ミスのないように計画的にこなしていきます。

○学内委員等

教学法人協議会構成員、高大連携会議構成員、大学再編準備室会議構成員、運営委員会委員、学長会議構成員、教育力向上委員会委員、人事委員会委員、学生募集戦略委員会委員、全学教職課程委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員、教職課程再課程認定委員会委員

○自己評価

すべてに全力で挑みました。何事にも責任と強い自覚を持って役割を果しました。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

保育養成校の教員として現職保育士の研修を行いたいが、難しい立場になっている。昨年は、全国保育士養成協議会中部セミナーの第３部会の実行委員、清洲市公立保育園の保育士研修を行ったが、今年度の全国保育士養成協議会全国セミナーの実行委員は、新任にお願いすることとなった。現職保育士の研修は、時間を作り続けて行きたい。

（計画）

依頼を受けた現職保育士の研修、障がいが疑われる子どもの指導など、時間を作り続けて行きたい。

○学会活動等

学会参加も大学行事等で、２回の参加になってしまった。

○地域連携・社会貢献等

保育園から依頼を受けた障がいが疑われる子どもの指導が、依頼を受けた半数ほどしか対応できなかったことが残念でした。

○自己評価

保育養成校の教員として現職保育士の研修を行いたいが、学務に追われ難しくなっている。現職保育士の研修は、時間を作り続けて行きたい。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

自己研鑽については、学校心理士・臨床発達心理士として、大会、研修会、学会に参加し、より良い子どもの育ちのために貢献できた。

Ⅵ　総括

学生１人ひとりが意欲を持って、達成感が得られるように授業に挑んできました。学生の満足度向上は、学生を甘やかすことではありません。学生の質の向上が大学の質の向上に繋がることを念頭に置き、教員の協働の下、学生の教育にこれからも全力を尽くします。現職保育士の研修、保育園からの依頼について十分な対応が出来ず次年度の課題として残った。

以　上